

# 光を練り合わせる

加藤巧 × 山脇竹生

KATO Takumi × YAMAWAKI Takeo

絵画と  
科学の  
対話から

公益財団法人  
小笠原敏晶記念財団

BankART 1929

Funda  
mental



加藤巧《Painter's Desk》600×1200mm | 木材、Jesmonite AC100、亜麻布、膠、顔料、卵黄、ライ麦粉、乾性油、アクリル樹脂 | 2024

主催：加藤巧 × 山脇竹生  
 助成：公益財団法人 小笠原敏晶記念財団  
本調査・研究は小笠原敏晶記念財団の調査・研究等への助成（現代美術分野）を受けたものです。  
 協力：資生堂グローバルイノベーションセンター、BankART1929、ファンダメンタルズプログラム、the three konohana  
 土方大（展示設計）、伊藤啓太（展示照明）、伊藤晶子（デザイン）

2025.01.18 SAT — 02.09 SUN

会期中無休

11:00 – 19:00

BankART Station

横浜市西区みなとみらい 5-1 新高島駅地下1F

入場料 500円(税込)

## 光を練り合わせる —— 絵画と科学の対話から

私たちは、意識しないうちに本来切れ目のない世界に切れ目を作って日々を過ごしています。学校での学びは「科目」に分けられ、毎日のニュースは出来事の「断片」に限られ、仕事は「分業」が進められています。これらは確かに効率よく学んだり、情報を得たり、専門性高く働いたりするメリットをもたらしました。しかし、「分けられたもの」ばかりに頼っていると、失われてしまう大事な視点があるように思います。

昔の画家は、絵の描き方だけでなく、描くときに使う材料-画材-に関する知恵を深く結びつけながら絵画を制作していました。それが近代になると画材をつくる人と画家との役割分担が進み、画家は絵具づくり時間に時間を費やすことなく、絵を描くことに専念できるようになりました。その反面で、かつての画家たちが持っていた「自らが使う材料への深い理解」に基づく絵画づくりといった方向へは発展しにくくなったと言えます。

現代では、こうしたあらゆるものを「分けていく」強い流れを問題ととらえて、分けられ、細かくなった断片を結びつける「学際融合」や「共創」といった活動が行われ、新しいアイデアが生まれるようになってきています。

そのような流れの中で、古今の材料を検討しながら作品制作を行うアーティストの加藤巧と、化粧品で使われる色材を研究する山脇竹生が協力し、かつての画家の工房がそうであったように、材料への理解を進めながら、表現と研究に対し、いま何ができるかについて考えを進めてきました。私たちはこのプロジェクトで、化粧品に使われる「パール剤」という材料がもつ「見る人との位置で見え方を変える」という特徴に着目し、これを共通の材料として互いの知識を交換し、交流を進めてきました。

この企画では、芸術と科学がどう交わり、新しい発見が生まれていくかを展示形式で紹介し、パール剤の歴史をひも解き、観察の元となる真珠とのつながりを見つけて材料に意味性をもたせました。パール剤の発色原理からは、この材料自身が色を発する光の粒であることを理解し、光を練り合わせるように絵具を調合し、実験し、これまでのパレットに加えていきました。

パール剤は見る人との位置関係で見え方を変える材料です。美術の位置から、科学の位置から共通の材料をながめ共有することで、それぞれの知識や経験、手仕事を再集合させるための象徴となりました。本展を通じて、かつて分かれてしまったものをもう一度つなげながら、これからの私たちが関わり合いの中で何ができるか、ともに考えていくきっかけとなれば幸いです。



②

### 出品作家／企画

加藤巧 (美術家) × 山脇竹生 (研究者)

#### 加藤巧 KATO Takumi

1984年愛知県生まれ、岐阜県在住。美術家。14,15世紀の画家・チェンニーノ・チェンニーニの『Il Libro dell'Arte』の研究を起点とし、現代につながる材料 / メディウム史を紐解きながら絵画材料研究と絵画制作を並行している。近年の主な個展として「愛情、畏敬、恭順、忍耐 -Enthusiasm, Reverence, Obedience and Constancy-」(2024/ the three konohana / 大阪市)、「Moving Meditation」(2024/ gallery N / 名古屋市)、「To Do」(2022/ gallery αM / 東京都)、グループ展として「VOCA展 2020 現代美術の展望・新しい平面の作家たち」(2020/ 上野の森美術館 / 東京都)、「タイムライン 時間に触れるためのいくつかの方法」(2019/ 京都大学総合博物館 / 京都市)、「SUPERNATURE」(2021/ White Conduit Projects / ロンドン)などがある。

<https://takumikato.com>

#### 山脇竹生 YAMAWAKI Takeo

株式会社資生堂ブランド価値開発研究所所属。1991年静岡県生まれ、神奈川県在住。博士(理学)。2018年4月資生堂入社。化粧品原料開発に携わったのち、美術大学を経て絵画制作で使われる技法に着目し、塗布法分類の研究、化粧品原料の絵画表現への応用研究を実施。美術家との共同研究成果展示に「揺動する絵画空間」(2023/ 資生堂グローバルイノベーションセンター / 横浜市)がある。

### 関連企画

#### トークイベント

「美術と科学が会い直すには 分業から統合へ」

今回のプロジェクト・展覧会の変遷を辿りながら、普段芸術と科学を横断しながら活動する修復士である田口かおり氏をゲストに、異なる背景を持って活動する者同士がこれからの文化のありようをどう捉えていくかについて考えていきます。

ゲスト：田口かおり (京都大学 人間・環境学研究科 准教授 / 修復士)

日時：2025年1月18日(土) 17:00 - 18:30

会場：BankART Station

予約方法：Peatixよりお申し込みください

定員人数：30人 (定員に達し次第締め切り)

参加費：無料 (入場料 500円がかかります)



#### ワークショップ

「パール剤を使った絵具を手作りしよう」

本展の中心的な材料となっている「パール剤」を用いた絵具作りやクレヨン作りを実際に体験できるワークショップです。

講師：加藤巧、山脇竹生

日時：2025年1月25日(土) 13:00 - 15:00

会場：BankART Station

予約方法：Peatixよりお申し込みください

定員人数：20人 (定員に達し次第締め切り)

参加費：1200円 (税込・入場料込)

※ホットドライヤーなど熱器具を使った制作を含みます。未就学のお子様は保護者の付き添いをお願い致します。



#### 作品画像

① 加藤巧 (To Pursue (pearls))

1820×450mm | 木製パネルに顔料、樹脂プラスタ、漆喰、蜜蝋 | 2024

② 加藤巧 (a painter and a scientist)

1125×1455mm | 木材、亜麻布、膠、顔料、卵黄、ライ麦粉、乾性油、アクリル樹脂 | 2024

## BankART Station

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい5-1 新高島駅地下1F

<https://www.bankart1929.com>

